

2022年8月30日

各位

株式会社ウェンティ・ジャパン

秋田市・潟上市沖における浮体式洋上風力発電設備のハイブリッド係留に係る実海域試験開始について

株式会社ウェンティ・ジャパン（本社：秋田市、社長：佐藤 裕之、以下「当社」）とジャパン マリンユナイテッド株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：千葉 光太郎、以下「JMU」）は、2021年4月23日に「秋田県沖海域における浮体式洋上風力発電事業の検討推進に関する覚書」を締結しておりますが、今般 JMU を主体とするコンソーシアム（注1）が、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金事業の助成を受け、秋田市・潟上市沖にて「セミサブ型浮体・ハイブリッド係留に係る実海域試験」（注2）を行うこととなり、当社はその海域選定について協力を致しました。

秋田県沖は風況が良いうえに遠浅のエリアが多く、洋上風力発電の適地とされており、2021年12月には能代・三種・男鹿沖及び由利本荘沖の2海域において洋上風力発電の事業者が公募により選定され、今後他の海域も着々と公募が進む予定です。さらにその後については、深い海域での浮体式洋上風力発電事業が期待されているなかで、当社としては、将来的な秋田沖での浮体式洋上風力発電事業の実現を見据え、本試験が秋田県沖で行われることが重要であると考え、海域選定に関して JMU を支援し、各関係者との協議の結果、実施海域は秋田市・潟上市沖となりました。本試験による成果は、将来的に商業ベースでの浮体式洋上風力発電事業の実現に向けて大きく寄与するものと考えます。海域選定にあたり、地元自治体、漁協関係者のご理解、ご協力に感謝いたします。

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、更なる再エネの導入が必要となりますが、当社としては、引き続き風力発電の推進と、浮体式洋上風力発電については先駆者となるべく、開発を進めてまいります。

以上

NEWS RELEASE

(注1) 事業実施者

- ・ ジャパン マリンユナイテッド株式会社（本社：神奈川県横浜市）
- ・ 日本シップヤード株式会社（本社：東京都千代田区）
- ・ ケイライン・ウインド・サービス株式会社（本社：東京都千代田区）
- ・ 東亜建設工業株式会社（本社：東京都新宿区）

共同研究者

- ・ 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所（東京都三鷹市）

(注2) 実海域試験概要

JMU 独自設計の浮体スケールモデル1基を、鋼製チェーンと合成繊維ロープを併用したハイブリッド係留にて秋田市・潟上市沖に設置し、係留システムの耐久性、設計手法および施工性の検証を行います。詳細はJMU プレスリリースを参照下さい。

https://www.jmuc.co.jp/press/docs/windfarm_scalemodel_20220830.pdf

(参考)

- 秋田県沖海域における浮体式洋上風力発電事業の検討推進に関する覚書の締結について（当社）：
http://www.venti-japan.jp/pdf/20210426_release_VJ-JMU_oboegaki.pdf
- 共同プロジェクト「浮体式洋上風力発電の量産化及び低コスト化」のグリーンイノベーション基金事業「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト」採択について（JMU）：
https://www.jmuc.co.jp/press/docs/windfarm_GI_20220121.pdf
- グリーンイノベーション基金事業、「洋上風力発電の低コスト化」に着手（NEDO）：
https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101505.html

《本件に関する問い合わせ先》

株式会社ウエンティ・ジャパン 管理部

TEL: 018-827-7435

E-mail: info@venti-japan.jp